

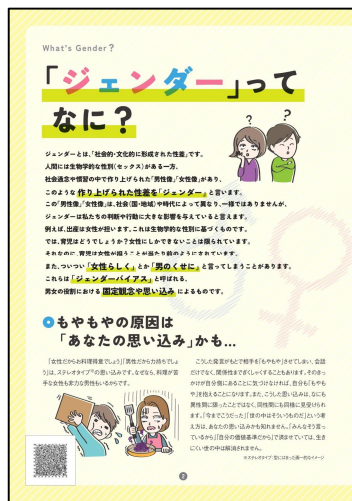
「ジェンダー」を理解するための最初の一步 「もやもや解消読本」が完成しました！

「ジェンダー」という言葉は知っていても、その意味が十分に理解できていない、あるいはどう対応すればよいか分からないなどの「もやもや」を抱えている方がいらっしゃいます。

世の中が急速に新しい価値観や基準を取り入れていくなかで、自身の言動や態度によって周囲の方がストレスを感じる事が無いよう、自分自身の「学び」(アップデート)が必要になってきます。

このたび県では、この「ジェンダー」を理解する最初の一步として、手軽に読んでいただけるリーフレット「もやもや解消読本」を作成しました。

ひとりでも多くの方の、気づきや学びのきっかけとなることを期待しています。



リーフレット概要

- 発行部数： 5,000部 ※県内市役所・町役場、図書館等に配架
- 発行： 広島県 環境県民局 わたらしい生き方応援課
- 企画制作： 公益財団法人 広島県男女共同参画財団
- 監修： 上水流久彦 県立広島大学教授
- 仕様： A4版8ページ フルカラー ※全ページ音声コード付き
- 内容：
 - ・「ジェンダー」ってなに？

- 言葉の定義から今日における問題まで解説します
- ・県立広島大学教授 上水流久彦さんからのメッセージ
- 「もやもやしている」方がすぐに取り組めることを紹介します
- ・ちいともやもや ジェンダー川柳コンテスト*1 作品紹介
- こんな場面にこんな「もやもや」が！作者コメントとイラスト付きです
- ・ジェンダーに関する DATA 集
- 日本や広島県のジェンダーに関する状況、県民の意識が分かります

リーフレット入手方法

広島県女性総合センター「エソール広島」をはじめ、県内市役所・町役場や図書館等に配架します。また、イベントや啓発用ジェンダー川柳パネル※²の展示に合わせた配布も予定しています。(数に限りがございますので、お早めに！)

リーフレットはこちらからダウンロードできます。

https://www.essor.or.jp/asset/00032/movamovasenryu/tiimova_pdf_all.pdf



また、「エソール広島」では、この「もやもや解消読本」を活用した出前講座やジェンダーに関する研修、公開講座、川柳パネルの貸し出しなどを行っています。職場や学校等でジェンダーについて学びたいときは、是非、ご相談ください。

【お問合せ先】
 広島県女性総合センター「エソール広島」
 住所 広島市中区大手町1-2-1 おりづるタワー10階
 電話 082-242-5262

※1 ちいともやもや ジェンダー川柳コンテスト

性別に関する固定観念の解消に向けた県主催の取組として、エソール広島と連携して令和5年度に初開催。応募総数1,649句の中から、最優秀賞(1点)、優秀賞(2点)、審査員賞(2点)、県民共感度No.1賞(1点)、入賞30句を決定。詳しくは、<https://essor.or.jp/movamovasenryu.html>



※2 啓発用ジェンダー川柳パネル

性別に関する固定観念の解消に向けた啓発用に、「ちいともやもや ジェンダー川柳コンテスト」の概要、一次審査通過30句、各受賞作品(最優秀賞、優秀賞、審査員賞)のパネル(B2版)を作成し、イベントや展示用に貸し出しています。

【パネル例】

<コンテスト概要>

<一次審査通過30句一覧>

<受賞作品紹介(最優秀賞)>

※コンテスト概要、30句一覧、受賞作品計6点の全8枚をご用意しています。

「ジェンダー」のこと、ちょっと気になる人のための

もやもや

解消

読本

ステップ

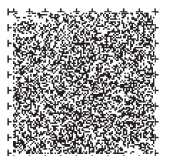
ちんと

もやもや
ジェンダー川柳
コンテスト
受賞作品も掲載！

令和5年度

契約者

この音声コードは、
スマートフォンアプリ
「Uni-Voice」で読み取ると
音声情報で確認できます



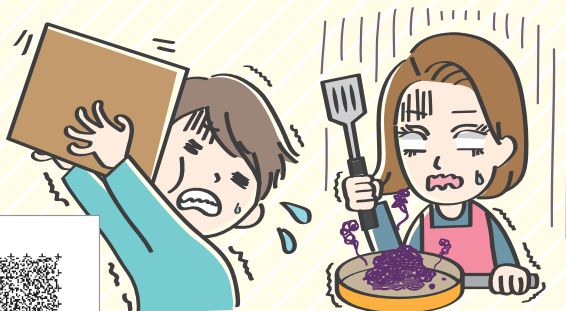
「ジェンダー」って なに？



ジェンダーとは、「社会的・文化的に形成された性差」です。
人間には生物学的な性別(セックス)がある一方、
社会通念や慣習の中で作り上げられた「男性像」「女性像」があり、
このような**作り上げられた性差を「ジェンダー」と**言います。
この「男性像」「女性像」は、社会(国・地域)や時代によって異なり、一様ではありませんが、
ジェンダーは私たちの判断や行動に大きな影響を与えていると言えます。
例えば、出産は女性が担います。これは生物学的な性別に基づくものです。
では、育児はどうでしょうか？女性にしかできないことは限られています。
それなのに、育児は女性が担うことが当たり前のようにされています。
また、ついつい「**女性らしく**」とか「**男のくせに**」とってしまうことがあります。
これらは「**ジェンダーバイアス**」と呼ばれる、
男女の役割における**固定観念や思い込み**によるものです。

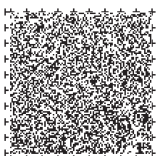
●もやもやの原因は 「あなたの思い込み」かも...

「女性だからお料理得意でしょう」「男性だから力持ちでしょう」は、ステレオタイプ※の思い込みです。なぜなら、料理が苦手な女性も非力な男性もいるからです。



こうした発言がもとで相手を「もやもや」させてしまい、会話だけでなく、関係性までぎくしゃくすることもあります。そのきっかけが自分側にあることに気づけなければ、自分も「もやもや」を抱えることになります。また、こうした思い込みは、なにも異性間に限ったことではなく、同性間にも同様に見受けられます。「今までこうだった」「世の中はそういうものだ」という考え方は、あなたの思い込みかも知れません。「みんなそう言っているから」「自分の価値基準だから」で済ませていては、生きにくい世の中は解消されません。

※ステレオタイプ:型にはまった画一的なイメージ



● 知らず知らずに押し付けてない？

「女性が淹れた方がおいしいからコーヒーお願いね」「男性の方、荷物運びをお願いします」こうした発言に対して、立場や年齢の違い、関係性によっては、はっきり「No!」と言える人ばかりではなく、一方的な押しつけや強要だと感じて、生きづらさを抱える人もいます。あなたの発言や振る舞いが、知らず知らずのうちに周囲や大切な人にもストレスを与え続けているとしたら…。それはあなたの本意ではないはずです。



● 誰もが自分らしく生きていく世の中に

私たちはいま、こうした思い込みや決めつけを考え直し、自身の基準をアップデートする時代に生きているのではないのでしょうか？この冊子は、いま、「もやもや」している方が、最初の一步を踏み出すための助けになりたいとの思いで企画しました。言葉は聞くけどよく分からない…という「ジェンダー」について、少しでも理解が深まり、興味を持っていただければ幸いです。

広島県では、2023年に「ちいともやもや ジェンダー川柳コ

ンテスト」を初開催しました。「男だから」「女だから」などの性別による思い込みや決めつけ、まさに「ジェンダーバイアス」で「もやもや」した思いを詠んだ川柳作品が、たくさん寄せられました。

次ページからは、その中から選ばれた入賞作品の一部をご紹介します。この冊子を手にとってくださったみなさんが、いろんな「もやもや」に触れて気づき、考え、行動を変えていただくことで、多くの方の「もやもや」が晴れるきっかけになればうれしいです。

Message

かみづる ひさびこ
上水流 久彦さん（県立広島大学教授）

できそうなこと
から
始めましょう!



「もやもやしている」あなたへ

今のジェンダーのあり方に、今のジェンダーの見直しに「もやもやしている」みなさんがすぐ取り組めることを、「学ぶ」「聞く」「交わる」という3つの視点で紹介します。

ひとつ目は学ぶことです。世の中の様々な分野で日々研究が進み、これまでの「常識」の見直しが進んでいます。ジェンダーも然りです。学び直しとはこうした「新しい知見」に触れ、「あなたの常識」を日々更新することです。例えば、エソール広島を始め、自治体が公民館等で開催する講座や大学の公開講座などが学びの機会になります。

ふたつ目は、聞くことです。何かをする（させる）前に、相手

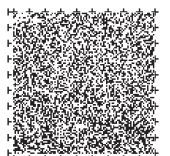
に「あなたは どう思う？ どうしたい？」と聞いてみましょう。そうすれば、誤解やおしつけは生まれず、相手はあなたを信頼してくれるでしょう。仮に思いやりからだとすると、「相手が女性（男性）だからこうしよう」と決めつけることはやめましょう。

みつ目は、交わることです。同性や同世代など、同質性の高い場にいると居心地はいいですが、自分の見聞がどうしても狭くなります。仕事でも趣味でもボランティアでも、様々な人と交わる経験が、相手を「性別」ではなく「個人」としてみる力を培います。

まずは、できそうなことから始めてみてはいかがでしょうか？

Profile

県立広島大学教授 地域基盤研究機構長、広島県男女共同参画審議会委員、
「ちいともやもや ジェンダー川柳コンテスト」審査員長



受賞作品の
一部を
ご紹介!

ちと もやもや ジェンダー川柳 コンテスト

12月5日(火)、
エソール広島で
授賞式を
行いました!

「男は仕事、女は家庭」「女のくせに」「男のくせに」...
こんな決めつけ、もう終わりにしませんか?

お題

「男だから」「女だから」など
性別による思い込みや決めつけて
「もやもや」したこと

- 募集期間** 令和5年9月14日(木)～10月15日(日)
応募総数 1,649句
審査員 上水流久彦(県立広島大学教授、審査員長)
犬山紙子(イラストエッセイスト)
中島尚樹(タレント)
山田幸(日本放送作家協会 中国・四国支部監事)
- 賞** 最優秀賞(1点)、優秀賞(2点)、審査員賞(2点)
※県民審査員が選んだ入賞作品30句の中から、
審査員の合議により決定
県民共感度No.1賞
※入賞作品30句の中から、オンライン投票により決定



川柳コンテストや
入賞作品30句に
ついてはこちら



2023年
最優秀賞

県民共感度
NO.1賞

ご飯まだ?
帰った時刻
同じだよ



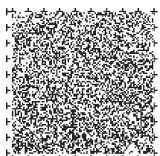
▼作者コメント

父と母は家に帰ってくる時刻が同じくらいなのに、父はすぐに晩酌をして、母は夕食を作っています。父が母に「ご飯まだ?」と言うのを聞いて、もやもやしました。

(10代:女性)

▼審査員コメント

「料理するのは母親」という家族内の性別による思い込みについて、子どもの視点でストレートに表現しています。ドギツとするお父さんもうらっしゃるかもしれませんが、こうした疑問を抱く若者が多くいます。





「手伝うよ」
 じゃのおて一緒に
 やりますじゃ



▼作者コメント

我が家は夫も家事に協力的ですが、料理だけは「手伝う」と言います。洗車など主体的にやってほしい家事を夫に任せていて、お互い様な部分もありますが…。もやもやを広島弁で表現してみました。
 (30代:女性)



色眼鏡
 押し付けられて
 押し付けた



▼作者コメント

過去に社会や周囲から刷り込まれていたジェンダーバイアスを、年齢を重ねて、今度は自分が押し付けていることに気づきました。偏見にとらわれていたのは私です。
 (70代:女性)



早帰宅
 見送る上司の
 子は三歳



▼作者コメント

「お子さんがまだ小さいから早く帰りな」と、自身も幼い子を持つ男性上司に言われて、もやもやしました。ジェンダー平等という女性活躍がよく取り上げられますが、その裏で男性が我慢しないよう、本当にジェンダー平等な世の中にしたいですね。
 (40代:女性)

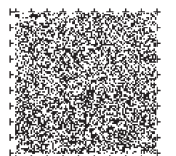


理系です
 「女ののこ」は
 余計です



▼作者コメント

私が進路を決める時に、周囲に言われてもやりました。誰もが暮らしやすい社会になることを願い、私も身近なジェンダーの問題に気づき、考えていきたいと思っています。
 (40代:女性)





知らんがな
あんたの飯なぞ
知らんがな



▼作者コメント

風邪をひき発熱。どうにか子供たちにカップ麺を食べさせていると、帰宅した夫が心配そうに「ママ大丈夫? パパのご飯はある?」と一言。

(40代:女性)

「いいパパね」
隣に「いいママ」
いますけど



▼作者コメント

父親は育児すると褒められるけれど、母親は褒められません…

(40代:女性)

ランドセル
「おれはピンク」
悩む親



▼作者コメント

息子は目を輝かせていましたが、親の方が周囲の目を気にしてしまい「男の子でピンクは。うーん」と、躊躇していました。

(40代:性別は答えたくない)

カップル割
同性だけど
使えます?

カップル



▼作者コメント

イタズラ使用ではないか? 証明が必要か? など、対応が難しそうです。

(30代:男性)

こっち見て
契約するのは
私なの



▼作者コメント

車を購入する時に、販売店の方が夫だけに向けて話しているような場面があり、モヤモヤしました。

(60代:女性)

聞き飽きた
「女の子じゃけえ」
この台詞



▼作者コメント

普段から周りの人たちに言われて、もやもやしています。

(10代:女性)

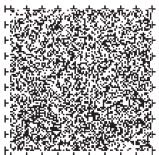
男なら
早く着替えろ
教室で



▼作者コメント

「男子は着替えに時間がかからないし、簡単だから」と、教室に追いやられています。

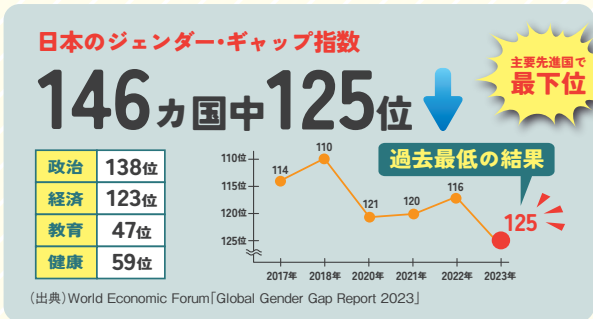
(20代:男性)



もやもや
解消!!

ジェンダーに関するDATA集

ジェンダー不平等「日本」



「ジェンダー・ギャップ指数」とは、世界経済フォーラムが毎年発表する男女格差を示す指標で、2023年の日本は146カ国中125位と過去最低の順位でした。主要先進国(G7)の中で最下位で、アジア諸国の中でも下位に位置します。特に、政治と経済の分野で格差解消が進んでいません。

Q.女性が政治や経済の分野で決定権を持つと、何がいいの？
A.政治や経済の中心を占める男性とは異なる経験や知見による多様な意見が反映されることで、誰もが暮らしやすい社会に近づくことができます。

広島県のように

全国平均と比べると、指導的立場(役員・管理職)に占める女性の割合は高いですが、都道府県議会における女性議員の比率は低い状況です。男性の育休取得は進んでいますが、家事・育児関連時間は、今なお女性が男性の4倍ほどの時間を費やしています。

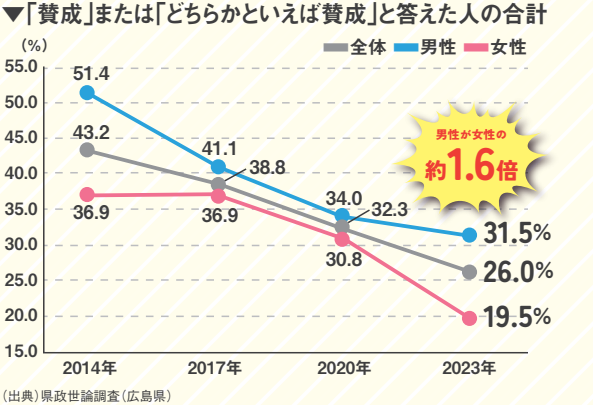


それって、性別による役割分担意識が根底にあるかも？

広島県民の意識調査

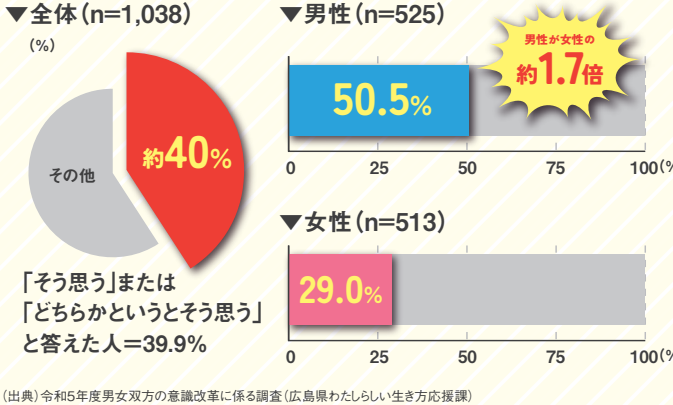
こういったジェンダー意識にとらわれてない？

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

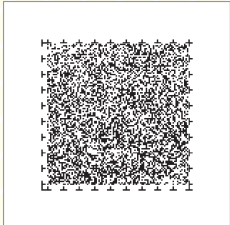


夫婦の伝統的な役割意識は明らかに減少傾向です。しかし、減少ペースには女性と男性とで差があり、最新の調査でも男性の31.5%は賛成と答えています。

●「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい」という考え方について(2023年)



回答には女性と男性で大きな差がみられました。性別による思い込みや決めつけが、子育てを通して子どもにすり込まれている可能性があります。



この冊子は、
女性と男性のジェンダーを中心に
話を構成しました。
しかし、実際には、
性のあり方は一人ひとり違っていて、
もっと多様な性が存在します。
自分自身を含む性のあり方について理解し、
それぞれの個性が尊重される
多様性のある社会を
目指しましょう。



発行：広島県 環境県民局 わたらしい生き方応援課
発行年月：令和6（2024）年3月
監修：上水流 久彦（県立広島大学教授）
企画制作：（公財）広島県男女共同参画財団 エッソール広島

*

エッソール広島では、公開講座や出前講座、研修受託事業等を実施しています！
皆さんの職場や学校等で、ジェンダーについて学びたいときはご相談ください。

*



広島市中区大手町一丁目2-1おりづるタワー10階
TEL:082-242-5262 FAX:082-240-5441 MAIL:essor@essor.or.jp

